

令和元年度 第1回(第17回)外部アドバイザー委員会報告書

- 1 開催日時 令和元年7月3日(水) 10時40分～11時
- 2 開催場所 倉敷市立短期大学 大会議室
- 3 出席者
 - (1) 委員 出席5名
山本委員, 姫路委員, 海本委員, 浪速委員, 江島委員
 - (2) 教職員 出席9名
安達学長, 金山保育学科長, 岩崎服飾美術学科長, 溝手図書館長,
家守事務局長, 大原学生部長, 上村学生部主幹, 木村主幹, 松本非常
勤嘱託員
 - (3) オブザーバー 出席1名
山路企画経営室長

4 次第

- (1) 安達学長挨拶
- (2) 報告・審議事項
- (3) その他
- (4) 次回委員会開催時期について

5 外部アドバイザー意見

○ 意見1

短期大学だけでは存続は難しいのではないのでしょうか。一つの学科でも4年制や大学院まであり、「これだ」と言えるような世界に発信できるものを持てば、興味を持つ学生が集まるのではないのでしょうか。例えば倉敷市が姉妹都市縁組をしている都市の学校と交流を頻繁に行い、その活動を県内外に幅広くPRすればよいのではないのでしょうか。アジアからの留学生や日本語学校の学生もファッションに非常に関心が高いと感じています。社会で注目されているものや若い世代が求めているものをターゲットに、核になるものを作り、そこに短大が持つスキルを合わせたら良いと思います。

○ 意見2

倉敷市立短期大学を卒業後、県外の大学へ進学し、倉敷市に就職したという話も聞きます。

短期大学で丁寧な教育を行われていることに安心感を持っています。昨年度、定員割れを起こした学科があるとのことですが、高校でも同じように家政系の高校で定員割れを起こしたと聞いています。短期大学の入試結果と連動しているかのようで不思議に感じます。倉敷市内で子供の数が減少していることが確かなので、その影響もあるかと思います。

○ 意見3

短期大学は2年間という短い学生生活であるので、学生の確保も難しいのではないのでしょうか。学費は3年分かかりますが、同じ単位を取得できる3年制の短期大学もあります。メリットとして、学生は時間的にゆとりを持って生活を送れますし、経済的にもアルバイトをしなければならぬ学生にとっては、興味を惹かれるのではないのでしょうか。

また、短大からの情報発信が少ないと感じています。最近、留学生の人数が増加していると実感していますが、彼らのニーズに短大が応えられたらと思います。

○ 意見4

短期大学の存在意義、在り方について再考する必要があるのではないのでしょうか。広報の体制などもっと積極的に活動してはいかがでしょうか。市立短大の学生は真面目でしっかり学んでいるというイメージがあります。そんな短大の良さをしっかり広報していけばよいのではないのでしょうか。

○ 意見5

「児島」という地域に期待するということで出てくるキーワードは「デニム」「ジーンズ」であると思います。そこで短大はどういった役割を持ち行動していこうとお考えなのでしょう。

他の委員の方が言われるように、情報をもっと活用していかないといけないのではないのでしょうか。今の時代、迎合型でいるのではなく、社会からのニーズを探り、そのニーズをいかに活かしていくか。授業のカリキュラムにニーズを活かすだけでなく、「こういうことをしている」と広報活動も一緒にしないといけないと思います。

10年後の短大の姿がどういったものになっているか、考えられる道や方法はたくさんあると思います。先生方は教員生活も長く、学生との関りも専門の方々ですから、もっと強く方向性を持って打ち出された方がよいのではないかと思います。

○ 意見6

前回の委員会で学生支援のためのカウンセラーを置くという意見があったのはどうなりましたか。

学長: 予算の関係で、カウンセラーの件について対応できていない状況です。昨年、大きな災害が起こり、学内にも直接また間接的な支援を必要とする学生もおりました。カウンセリングが

出来る保育学科の教員で支援する体制を作り対応してきましたが、長期的に体制を維持するためにも、カウンセラーの確保は課題となっています。

○ 意見7

倉敷市の行事で姉妹都市縁組をしている都市に行った時、短大の PR を行うというのはいかがでしょうか。サマーキャンプ等、小中学生が活動しているような場所で短大の学生がパフォーマンスを行い、「こんな学校もある」との広報活動をするなど、興味を持ってもらうきっかけ作りも必要だと思います。

また、倉敷市や児島出身の方のお力を借り、介在していただきながら短大の PR を行うというのはいかがでしょうか。